

# 横浜市大

横浜市立大学金沢八景キャンパス（金沢区）で19日、「学生×教授×弁護士 これからどうなる？ YCU安保法制トクセッション」が開かれ、学生や近隣住民など約100人が参加しました。

瀧元深析（みき）さん（4年）、山根徹也准教授が主催者あいさつ。SEALEDs（シールズ）自由と民主主義のための学生緊急行動）の学生が、国会前での行動を報告し、飯田学史（さとし）弁護士が、戦争法を合憲とする主張に対し、先制攻撃につながる集団的自衛権の行使を容認する戦争法は違憲だと解説しました。

セッションでは、上村

## 野党は一致して対応を

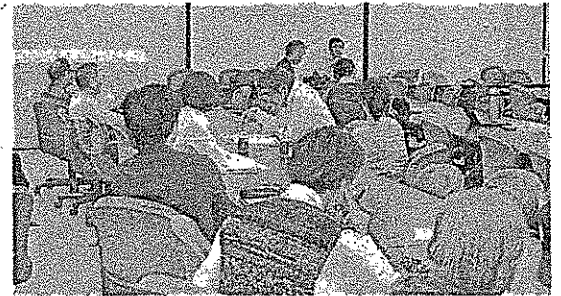
雄彦（たけひこ）、廣田全男（まさお）の各教授、金子文夫名誉教授、飯田弁護士が4人が、学生や参加者の質問に次々と答えました。

「選挙で勝てるのか」との質問には「参院選がカギ。いかに野党が一致して選挙協力できるかだ」（上村氏）などの声が上がりました。

廣田氏は「参院で多数派を獲得することは、反対派の国民にとって至上命題だ」と強調し、日本共産党の国民連合政府の提案に触れ「立憲主義を回復する、民主主義の過程を正常に戻す、こうした点で野党全部が一致して対応しなければ」と話しました。



瀧元さん（マイクを握る人）の質問を聞く（瀧元さんから左へ）廣田、金子、上村、飯田の各氏＝19日、横浜市金沢区



戦争法廃止の運動を継続してこうと開かれた学習会＝19日、大阪市

戦争法 民意示そう 大学で集会・学習会

## この法律 絶対に止める

# 大阪市大

安全保障関連法（戦争法）反対の運動を継続していこうと、大阪市立大学関係者らが19日、大阪市住吉区の大学キャンパス内で「憲法9条と立憲主義」をテーマに学習会を開きました。教職員や学生でつくる「違憲安全保障関連法に反対する大阪市立大学有志の会（『反安市大』）が呼びかけたもので、職員、学生、卒業生ら56人が参加し、質疑応答でも熱心に話し合いました。

大阪市立大学大学院の渡邊賢教授（憲法学）が、新安保法制の問題点について詳しく説明。今後の運動について「集団的自衛権合憲論を政治的に安定させないためには次の選挙で私たちがどういった民意を示すかにかかっている」と強調しました。「SEALEDs KA NSA I」（シールズ関西）の脇田燦志朗さんは「法案が通ってからの一気に戦争に向かっている。立憲主義、民主主義をないがしろにする法律を絶対に止めたい」と語りました。

「反安市大」学生代表の岡樹志さんは、学生の視点から見た、経済的徴兵制について報告しました。

参加者も「授業でデモの映像を見ているが、今年、シールズのデモを見た学生からは『参加してみたい』という反応が返ってきた」「海外で住民を殺傷した場合、日本には軍事法廷がないので、自衛官個人の責任が問われる」など次々と発言しました。